

## 1 はじめに

中里小学校では、小中一貫教育をすすめており、各教科等の年間指導計画の作成にあたっては、小学1年生から中学3年までの9年間を見通して作られている。生活科及び総合的な学習の時間の年間指導計画も同様である。生活科や総合的な学習の時間でも各学年の発達段階に応じた内容であり、また、中里地区の地域の特性に応じた内容となっている。

その中心となっているものが郷土学習という視点である。生活科では、地域の祭りや昔遊びなど児童が身近に体験している内容で構成され、3・4年生の総合的な学習の時間では、里川の水質調査やりんごの栽培を通して地域を学ぶ内容となっている。さらに、5・6年生では、中里地区の農業や福祉について学び、中学校での職場体験学習や中学3年生での販売体験という地域発信型の取り組みとつながっていく。

ここでは、5・6年生の福祉体験学習を中心に取り上げていく。5・6年生は、地域にある特別養護老人施設「山水苑」での介護体験を行っている。1学期は、お年寄りとの交流と介護施設に関する基本的な知識の習得を中心として体験し、2学期には、実際にお年寄りへの介護体験を行い、3学期には、それらの体験をまとめ、発表するという流れで授業を計画している。

以下の指導案では、2学期に口腔体操を実際にお年寄りに実施していくために、事前に山水苑のスタッフから、具体的な口腔体操の方法を学ぶ内容となっている。この後、実際に山水苑において口腔体操を体験することができた。

## 2 具体的実践事例

.....      .....      .....      .....      .....      .....

第5・6学年1組 総合的な学習の時間 単元指導計画

1 単元名 「中里の福祉について考え、自分たちにできることから始めてみよう」（12時間扱い）

### 2 単元設定の理由

(1) 児童の実態から ～省略～

(2) 本単元で身に付けたい資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

～省略～

【自分自身に関すること】

～省略～

【他者や社会とのかかわりに関すること】

～省略～

(3) 内容について

～省略～

5・6年生の総合的な学習の時間では、「中里の農業について考え、米作りに挑戦してみよう」と本テーマの2つのテーマを隔年で取り組みながら、中学校1年生の「中里周辺の地域を知り、自分の世界をひろげよう」に引き継いでいく。 ～省略～

まず介護施設そのものについて調べ学習を行い、介護施設を理解するための基本をおさえた。その上で、山水苑に実際に行き、デイサービスに参加し、比較的軽微な介護の仕事の一端を実際

に体験してきた。

～以下 省略～

### 3 単元目標

特別養護老人ホーム山水苑で行われている介護について、自ら探究する活動を通して理解を深めながら、将来自分が目指す職業についての意識を高めていけるようにする。

### 4 単元の評価規準

～省略～

### 5 指導計画（12時間）

学習過程	主な学習活動	評価規準及び評価方法	
1 介護について調べよう (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護について、持っているイメージや知っていることなどを話し合う。</li> <li>・高齢者介護についての概略を調べ、各自の課題を設定する。</li> <li>・初めての体験活動に向けて、介護に関する基本的な注意点について学ぶ。</li> </ul>	【態】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察による評価 (行動観察・発言)</li> <li>・制作物による評価 (学習シート)</li> </ul>
2 高齢者とふれ合いをしよう (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山水苑のデイサービスでの体験活動を行い、高齢者介護の一端について状況をつかむ。</li> <li>・デイサービスでの体験活動をもとにわかってきたことを発表する。</li> </ul>	【学】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察による評価 (行動観察)</li> <li>・制作物による評価 (振り返りカード)</li> </ul>
3 介護体験をしよう (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所者の介護とは、具体的にどのようなものかを自分なりに調べる。</li> <li>・調べたことを基に情報交換を行い、介護に向けての意見を交換する。</li> <li>・実際に介護を行うための注意点を考えるとともに、ゲストティーチャーに口腔体操を教わる。(本時)</li> <li>・山水苑で入所者介護の体験をする。</li> </ul>	【態】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察による評価 (行動観察・発言)</li> <li>・観察による評価 (行動観察)</li> </ul>
4 福祉学習を振り返ろう (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所者の介護体験について振り返り、感想や意見を交換する。</li> <li>・体験してわかってきた介護の難しさや注意することをまとめ、発表する。</li> </ul>	【能】 【生】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察による評価 (行動観察・発言)</li> <li>・制作物による評価 (振り返りカード)</li> </ul>

### 6 本時の学習

#### (1) 目標

・山水苑での介護体験をするための具体的な注意点考え、実際に口腔体操を体験する。

#### (2) 準備・資料

ワークシート・プロジェクター・スクリーン・写真

#### (3) 展開 ㊸個人に応じた支援 ㊹「なかさとスタイル」を推進するための支援 ㊺評価

展開	主な学習活動と予想される児童の活動・反応	教師の支援・評価
つかむ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 これまでの活動を振り返り、本時の活動の見通しを持つ。</li> <li>2 本時の学習課題を知る。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の山水苑訪問の様子を写真などの資料を見て振り返り、介護に対する意識を喚起した上で、本時の見通しを持てるようにする。</li> </ul>

山水苑での介護体験をするために、具体的な訓練を体験しよう。

ふ  
か  
め  
る

3 いろいろな介護体験に向けて、具体的な注意点を考える。

(1) 具体的な介護の場面を考える。

- ・施設内の移動にともなう介助
- ・車いすの移動にともなう介助
- ・トイレにともなう介助
- ・シーツ交換にともなう介助
- ・ベッドでの体位変換にともなう介助
- ・衣服の交換にともなう介助
- ・清拭にともなう介助
- ・水分補給等にともなう介助
- ・食事にともなう介助
- ・リハビリ体操にともなう介助

(2) 介護の仕方や注意点を考える。

- ・介護士さんの指示を確認しながら介助を手伝う。
- ・高齢者の動作のスピードに合わせて介助のタイミングをみる。
- ・高齢者の体や意識のレベルを捉えられるように努力し、失礼のないように礼儀正しく対応する。
- ・介護士さんの仕事の邪魔にならないように手伝う。
- ・高齢者の方に声をかけてから動作をする。

4 介護施設での訓練を実際に体験する。

(1) ゲストティーチャーの訓練の様子をみて、実際にやってみる。

- ・嚥下動作の体操
- ・口を動かす体操
- ・舌を動かす体操

・1学期に山水苑訪問で行った老人との活動体験を基に、さらに1歩踏み込んだ介護体験を行う学習であることを確認し、本時の課題の意図を明確にする。

・学習班に分かれて、各班ごとに具体的な介護の場面を話し合い、多くの介護の場面について考えられるようにする。

㊦具体的な注意点を考えるために、実際の介護の場面について取り上げ、自分の活動として想起できるようにしていく。

・介護士に同行する形での介助体験であることを全体に伝える。

・軽微な介助については実際に体験させてもらえるが、入所している高齢者の部屋での介助に関しては、介護士の補助としての活動になることを伝える。

・それぞれの高齢者によって介助のレベルに違いがある。今回の体験は、介護士に同行し、介護の実態をつかむ体験ができる。大変貴重な場であることを意識できるように説明していく。

㊦具体的な介護の場面を意識した上で、介護の仕方や介護をする際の注意点について考えていけるようにする。

・実際に体験できるものや介護士に同行するものなど、介助のレベルはいろいろであるが、高齢者を介護する際に気をつけなければならないことを、それぞれの場面を想起させた上で考えられるようにする。

・児童が発表した代表的な場面を取り上げ、漠然とした注意点からより実際的な視点を持てるように説明を加えていく。

㊦発表を聞いて、いろいろな意見や付け足したい情報などを自由に発言できるように配慮する。

㊦全員に意見を発表する機会を与えるようにし、指名を交えながら導いていくように支援する。

・全体的な注意点や具体的な場面での注意点など、児童の捉えた状況で発表させる。

・山水苑の介護士の方をゲストティーチャーとして招き、次回の山水苑で入所している高齢者に行う口腔体操について実際に指導していただき、事前に学習をする。

㊦児童一人一人の様子を確認し、口腔体操の実技が理解されているか確認し、高齢者と一緒にできるように支援していく。

㊦具体的な介護の場面について注意点を考えること

まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほほを動かす体操</li> <li>・</li> </ul>	<p>とができる。 (発表の観察)</p> <p>口腔体操の内容を理解し、実際にできる。 (活動の観察)</p>
	<p>5 本時の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに本時の反省と学んだことを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時に学習したことを思った通りにかかせるようにする。特に、口腔体操について児童がどの程度理解できたかつかむようにする。</li> </ul>

3 写真資料（1・2学期の山水苑訪問から）

<介護食の体験>



<車いすの操作>



<口腔体操>



4 成果と課題

(1) 成果

- ・児童は、普段の生活の中で介護という言葉は知っているものの具体的に体験したことがなく、介護について調べることから始まり実際に体験することで、お年寄りの介護が非常に大変であると共に、大切であることをつかむことができた。
- ・今回の体験では、単なる交流やボランティアという簡単なものではなく、日常的に行われている介護現場の一端に参加させていただいたことから、より中学生での職場体験的な視点を持つとともに意識を高めることができた。
- ・口腔体操は、お年寄りに教えていただく意識で参加したことで、お年寄りがいつもより表情が明るくなり、生き生きすることができた。

(2) 課題

- ・老人介護施設で実際に介護を体験させるためには、衛生面・安全面での打ち合わせが必要で、特に、施設側では、児童の訪問日によって対応できるお年寄りやスタッフなどの条件を整える必要があり、児童への事前準備以上に大変である点を考慮しなければならない。
- ・本時の授業では施設のスタッフの方により口腔体操の事前指導をいただいたが、介護に関する児童の認識レベルを十分に上げておかなければならず、そのために担任として十分な介護に関する事前学習及び体験を積んでおかなければならない。